核兵器廃絶市民講座

ローマ教皇の長崎訪問の意義

カトリック長崎大司教　髙見 三明

2020年12月12日（土）長崎県庁

はじめに　キリスト教とその歴史

1.　イエス・キリスト

- キリストは、三位一体（父と子と聖霊）の神の「子」。
- 神の永遠の計画により、ユダ族（イスラエルの12部族の中心）のダビデ王家の子孫として、前5年前後にベツレヘム（イスラエル）に生まれる。
- しかし神の特別な働き（聖霊）によってマリアから生まれて「イエス」（ヘブライ語では「ヨシュア＝主［神］は救う」）と名づけられた。
- キリストの生誕が西暦1年とされている。

イエスは、自己中心的で所有欲と支配欲に動かされている人類社会に、

すべての人を分け隔てなく自分と同じように愛すること、否自分のいのちを差し出すほどに大切にし、信頼し、ゆるすこと、

そうすることによって慈しみに満ちた平和な世界をつくるよう教え、教えるだけでなく自ら十字架の上で死に、復活して模範を示した。

2. 教会の創設

このイエスを「キリスト」すなわち人類の救い主として信じて洗礼を受け、その信仰に基づいて生きようとする人々、すなわちキリスト信者の共同体が教会(Ecclesia)と呼ばれる。

教会は、唯一であり、カトリック(普遍的)である。

彼らはほかの人と特に変わったところはない。ただ、キリストの愛の教えに従って生活しようとしている。

キリストは今もいつも彼らと共にいる。

イエスの12人の使徒とペトロ

キリストは、教会に奉仕させるために選んだ、12人の使徒を核として教会を創設した。ペトロという漁師出身の人物を12人の頭として立てた。

ペトロは、ローマへ行ってキリストの教えを伝えたが、ネロ皇帝の命令でバチカンの競技場において処刑された。紀元64年頃のことだった。

こうして、ペトロの後継者は、ローマの司教であると同時に、全世界のキリスト教会の最高司牧者、すなわち教皇となる。

3. 使徒以後の教会の組織

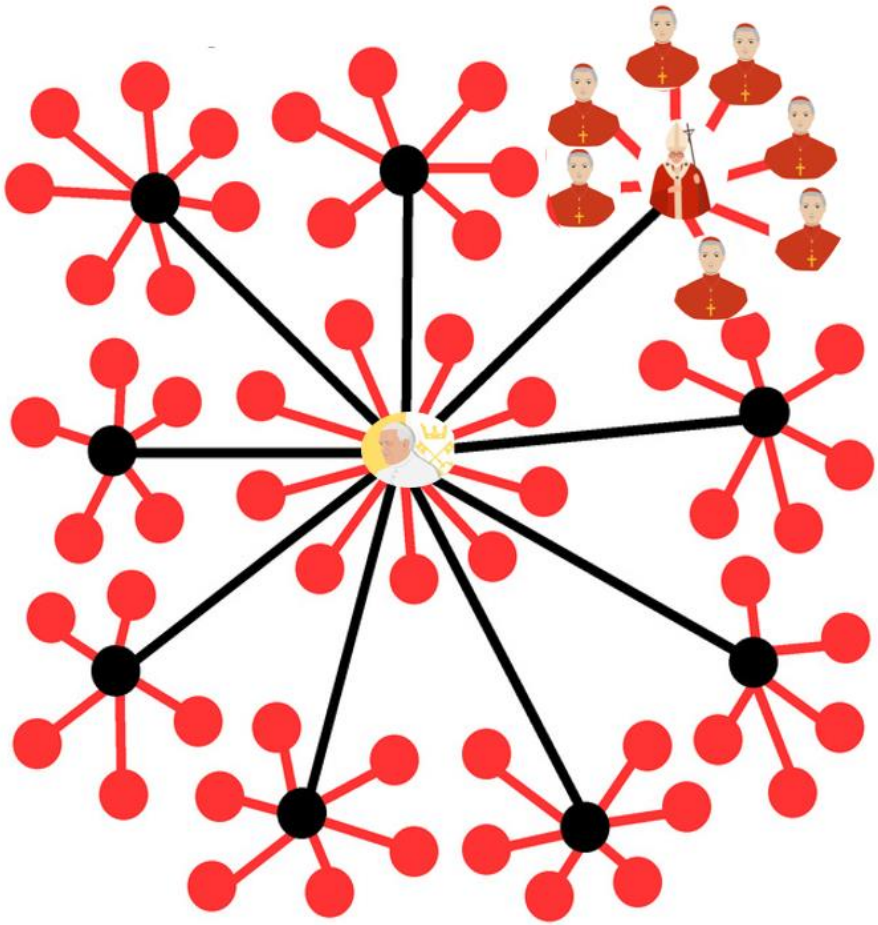
使徒の後継者が司教。

司教は一定地域の中で協力者の司祭団および助祭団と共に、教えと典礼祭儀を通して信者や修道者を一つの共同体としてまとめ、彼らの信仰生活を導く。

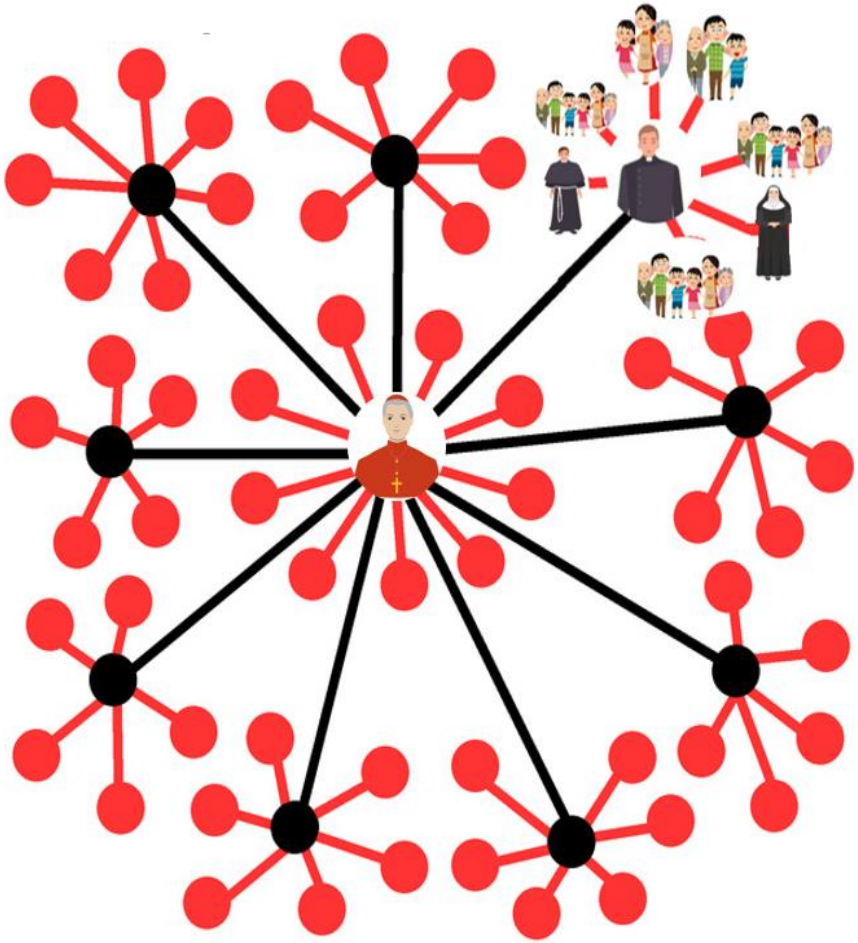
司教・司祭・助祭は聖職者と呼ばれるが、キリストを信じる人々（教会共同体）に奉仕するために、彼らの中からキリストに選ばれた人々である。

この基本的な組織が司教区であり、全世界の司教区が一つのカトリック教会を構成している。

カトリック教会の構造



カトリック教会の構造



4. 迫害と教会の発展

キリスト教は、ネロ皇帝（在位54-68年）以降、断続的に激しく迫害された。

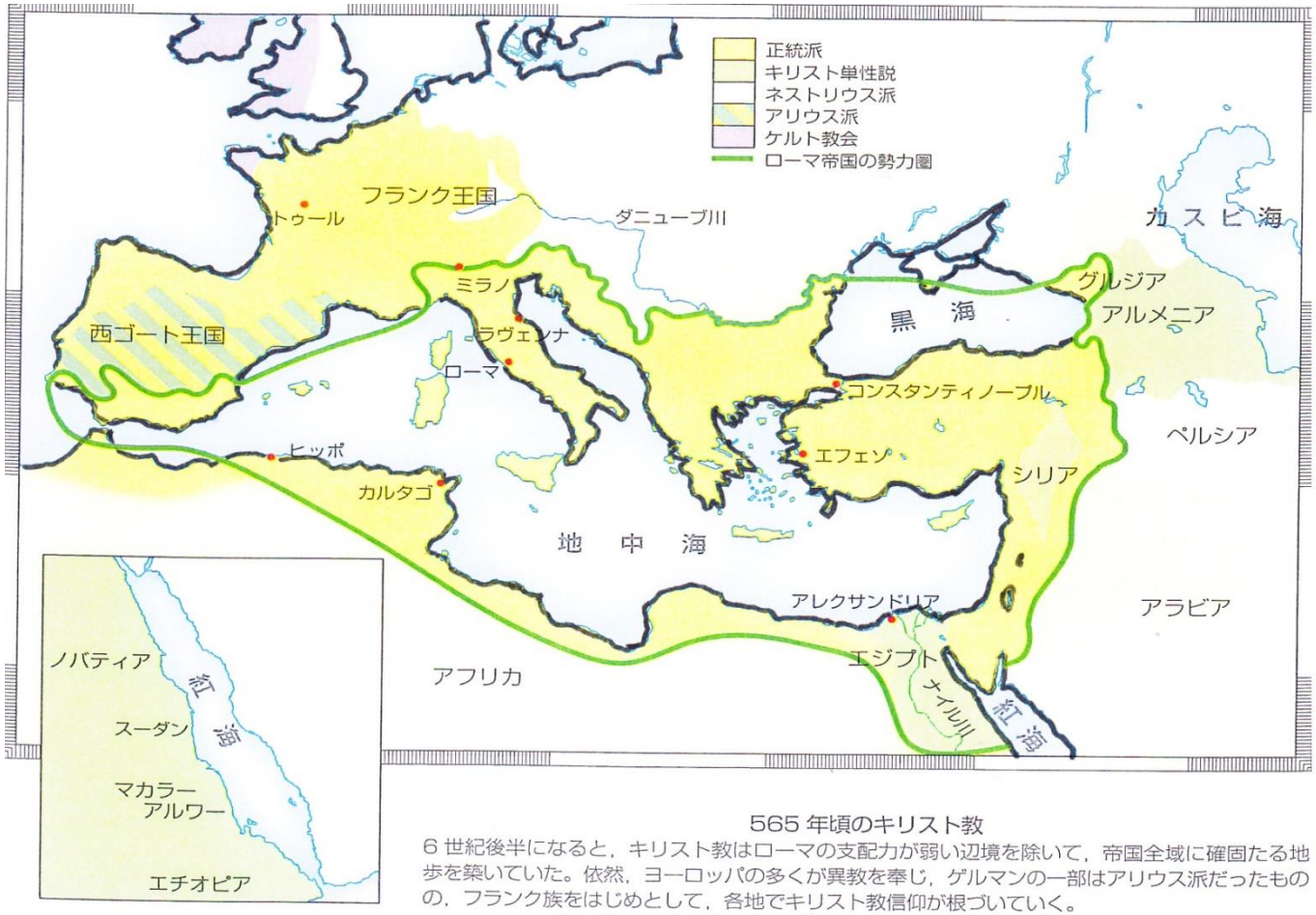
ペトロは、64年頃殉教。聖ペトロ大聖堂はその墓の上に建てられている。

313年、コンスタンティヌス大帝は、キリスト教を公認。

392年にはテオドシウス一世が国教とした。

こうしてキリスト教は、現在の西ヨーロッパ、北アフリカ、エジプト、ギリシア、トルコ、中東、東欧まで広がり、キリスト教社会が築かれていった。

世紀西欧のキリスト教世界



565 年頃のキリスト教

6 世紀後半になると，キリスト教はローマの支配力が弱い辺境を除いて，帝国全域に確固たる地歩を築いていた。依然，ヨーロッパの多くが異教を奉じ，ゲルマンの一部はアリウス派だったものの，フランク族をはじめとして，各地でキリスト教信仰が根づいていく。

教会の分裂：

(1) 東西分裂(11世紀)

1054年キリスト教は、教義・典礼祭儀や政治・文化などの問題が原因で東西に分裂する。西方教会と東方教会(東欧)に分かれた形になり、一部を除いて現在もその状態が続いている。

(2) 西欧の教会の分裂(16世紀)

西欧では、1517年、ルターが分離し、それ以後いわゆるプロテスタント諸教会が生まれる。

1534年にはイギリス国王ヘンリー八世の離婚問題から英国教会が分かれた。

5. 教会の分裂

(1) 東西分裂(11世紀)

1054年キリスト教は、教義・典礼祭儀や政治・文化などの問題が原因で東西に分裂する。西方教会と東方教会(東欧)に分かれた形になり、一部を除いて現在もその状態が続いている。

(2) 西欧の教会の分裂(16世紀)

西欧では、1517年、ルターが分離し、それ以後いわゆるプロテスタント諸教会が生まれる。

1534年にはイギリス国王ヘンリー八世の離婚問題から英国教会が分かれた。

6. 諸修道会の役割

カトリック教会の中には、3世紀頃から神のみのために生きる隠遁修道者、さらに共同生活をする男女の修道者が現れた。

中でも6世紀のベネディクトが創設した修道会は西欧諸国から全世界へと広がって、教会の信仰生活や文化に大きな影響を与えた。ベネディクト会を厳格にしたのがトラピスト修道会。

13世紀になると、アシジのフランシスコがフランシスコ会を、スペインのドミニコがドミニコ会を創設し、アウグスティヌスの精神で聖アウグスチノ修道会が設立された。これらは、托鉢修道会と呼ばれる。

スペイン・バスクのイグナチオやフランシスコ・ザベリオなどが創立したイエズス会は、1540年に教皇パウロ三世によって正式に認可された。

修道会は、それぞれの創立者が抱いた目的のためにつくられ、教会の権威者（教皇あるいは司教）によって認可される。

会員は、キリストの教えに従って清貧（共有）と貞潔（独身）と従順を生涯守る。女子修道会も設立される。

フランシスコ会は貧しさを追求し、

ドミニコ会はキリストの教えを説く活動、

イエズス会は教皇の要請に応えて教会の必要のために奉仕することを目的とした。

7. キリスト教の日本伝来
イエズス会などの宣教師（司祭）・修道士の来日

1549年8月15日、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエル一行が鹿児島に上陸し、キリスト教が初めて日本にもたらされた。

ザビエルは、平戸、山口、大分で領主の許可を受けて宣教し、約700名の日本人に洗礼を授けた。

彼と一緒に来日した宣教師と彼らの後から来た宣教師たちが九州、京都、大阪、後には関東や東北の方面でも信者たちを増やしていった。

1563年大村純忠受洗、島原、1566年五島、1567年長崎での宣教。

1571年長崎開港と町づくり

1600年頃、キリシタンは40万人ほどいたと考えられる。

日本で最初の司教区、府内（現大分）司教区の設立

1588年1月、教皇シクスト五世は府内（現大分）司教区を設立し、初代司教モライスを任命。日本への航海中に病死。

1596年、第二代司教ペドロ・マルティンス（8月14日長崎着）、1598年第三代司教ルイス・デ・セルケイラ（8月5日長崎着）。

二人とも任地の府内はキリシタン迫害のため赴任できず、長崎に司教座（岬の教会、県庁跡地）を置いた。当時日本全体のためのただ一人の司教であった。

セルケイラ司教は、長崎の教会の発展に大いに貢献し、1614年2月禁教令発布後間もなく病死した。

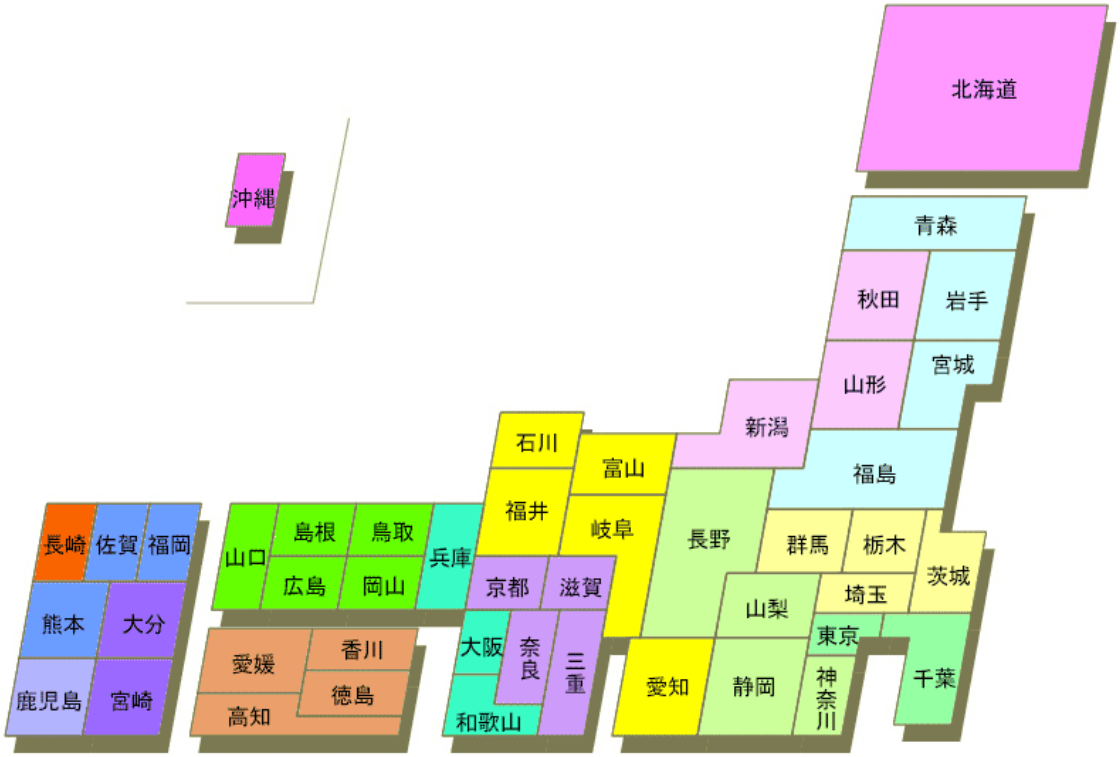
キリスト教の禁制と復活

1614年　キリシタン禁教令が全国に布かれる。
　　セルケイラ司教病死。
　　以後司教は着任できず。
1867年　大浦天主堂を建てたプティジャン神父、
　　日本使徒座代理区長（司教）に任命。
1873年　禁教令が解かれる。
　　教会が各地に建てられる。
1891年　札幌、東京、大阪、長崎が司教区に。

現在の日本のカトリック教会

人口:約45万人

東京大司教区:札幌、仙台、新潟、さいたま、横浜各司教区
大阪大司教区阪:名古屋、京都、広島、高松各司教区
長崎大司教区:福岡、大分、鹿児島、那覇各司教区



1. 教皇ヨハネ・パウロ二世の広島平和アピール

教皇ヨハネ・パウロ二世は、1981年2月25日東京から広島経由で長崎に来られた。

広島平和記念公園で、「平和アピール」をなさった。

冒頭、日本語で非常にインパクトのある言葉を述べられた。

戦争は人間のしわざです。
戦争は人間の生命の破壊です。
戦争は死です。
（この広島の町ほどに）
この真理を世界に訴えている場所はほかにありません

そして広島と長崎の町に言及してこう言われた。

もはや切っても切れない対をなしている二つの町、日本の二つの町、広島と長崎は、「人間は信じられないほどの破壊ができる」ということの証として、存在する悲運を担った、世界に類のない町です。

しかし、長崎では原爆ホームの慰問以外は、原爆に関するメッセージは述べず、ミサの挙行、西坂～大浦天主堂～本河内の巡礼をされた。

2. 教皇フランシスコの長崎訪問

昨年11月24日早朝、東京を出発した教皇フランシスコは、長崎空港に到着すると長崎爆心地公園に直行され、雨の中、そこから全世界に向けて「核兵器についてのメッセージ」を発信された。

（1）長崎訪問の意義

（ア）訪日された二人目のローマ教皇が、二つ目の原子爆弾が落とされた長崎を訪れたことは、大変意義深い。世界中の多くの人は、広島のことは知っているが、長崎が被爆地であるということを知らない人たちは少なくないと思われる。今回の訪問で、世界中の人々が、被爆地は広島だけでなく、長崎も被爆地だ、原爆は二つの都市に投下されたのだということをあらためて知らされた。

（イ）実際に原爆が投下されて何万人もの人々がいのちと家財産と人生を奪われ、何万もの人々が負傷し、被爆者として生涯苦しむことになった場所に立つことで、まず教皇ご自身がその実相に近づいたと感じ、平和の重要性をさらに確信されたであろう。

（ウ）被爆地から全世界に向かってその思いを述べるとき、人々に訴える力を帯びるはずである。ほかの場所から訴えるのとはちがって、まさに被爆地長崎の中心地、原子爆弾が500メートル上空で炸裂した、爆心地からだから。

（エ）今、世界は、各地での武力紛争や難民問題、地球環境の悪化、新型コロナウイルス感染などの問題に加え、大国の指導者間の対立や自国第一主義の主張のために分断されつつある。核兵器関連の条約も破棄されたり、国連の組織的活動が正常に機能できなくなったりしている。

　このような時にこそ、平和構築のための強いメッセージや提言、そしてその実行が求められている。教皇のメッセージはそのようなニーズに応えるものであって欲しい。

Papa Francesco
©長崎県

（2）教皇フランシスコ
核兵器についてのメッセージ

（ア）核兵器は平和と安定という人の深い望みを満たすことはできない。

人の心にあるもっとも深い望みの一つは、平和と安定への望みです。核兵器や他の大量破壊兵器を所有することは、この望みに対する最良のこたえではありません。

国際的な平和と安定は、相互破壊の恐れや全体的壊滅の脅威を土台とした、どんな企てとも相いれないものです。

（イ）軍備拡張競争は、貴重な資源の無駄遣い

軍備拡張競争は、諸国民の全人的発展と自然環境の保全のために活用すべき貴重な資源の無駄遣いです。

全人的発展について教皇フランシスコの説明：人のいのちは、オーケストラが奏でるハーモニーに似ています。楽団全員が、一つになってさまざまな楽器を楽譜通りに演奏するとき、美しいハーモニーが生まれます。

（ウ）核兵器の製造や売買は、神に対するテロ行為に等しい

　今日の世界では、何百万という子どもや家族が、人間以下の条件で生活しています。しかし、日ごとにいっそう破壊的になっている武器の製造、改良、維持、売買のために費やされる財と築かれる富は、神に歯向かうテロ行為です。

（エ）すべての人へ

核兵器から解放された平和な世界。それは、あらゆる場所で、数え切れないほどの人が熱望していることです。この理想を実現するには、すべての人の参加が必要です。個々人、宗教団体、市民社会、核兵器保有国も非保有国も、軍事区域も民間区域も、国際機関もそうです。核兵器の脅威に対しては、今拡大している不信の流れを打ち砕く相互信頼を困難であっても絶えず築き上げ、一致団結して応じなくてはなりません。

（オ）政治をつかさどる指導者へ

　核兵器のない世界が可能であり必要であるという確信をもって、政治をつかさどる指導者の皆さんにお願いします。

　核兵器は、今日の国際的また国家の安全保障に対する脅威からわたしたちを守ってくれるものではない、そう心に刻んでください。

　人道的および環境の観点から、核兵器の使用がもたらす壊滅的な打撃を考えなくてはなりません。核の理論によって募らされる恐れ、不信、敵意の増幅を止めなければなりません。

3. 平和のための集いでのメッセージ（広島平和記念公園）

確信をもって、あらためて申し上げます。

戦争のために原子力を使用することは、現代において、犯罪以外の何ものでもありません。人類とその尊厳に反するだけでなく、わたしたちの共通の家の未来におけるあらゆる可能性に反します。

原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の保有は、それ自体が倫理に反しています。

　戦争のための最新鋭で強力な兵器を製造しながら、平和について話すことなどどうしてできるでしょうか。より正義にかなう安全な社会を築きたいと真に望むならば、武器を手放さなければなりません。「武器を手にしたまま、愛することはできません」（教皇パウロ六世「国連でのスピーチ」（1965年10月4日）。

　紛争の正当な解決策として、核戦争の脅威による威嚇をちらつかせながら、どうして平和を提案できるでしょうか。

真の平和とは、非武装の平和以外にありえません。それに、「平和は単に戦争がないことでもな〔く〕、（…）たえず建設されるべきもの」（第二バチカン公会議『現代世界憲章』78）です。

それは正義の結果であり、発展の結果、連帯の結果であり、わたしたちの共通の家（地球）の世話の結果、共通善を促進した結果生まれるものなのです。

4. 教皇訪日の成果

1. カトリック司教協議会会長髙見三明の名前で、安部首相宛に「核兵器禁止条約への署名及び批准の要請をお願いいたします」という文書（2019年12月12日付）を提出。12月20日、副会長の菊地功東京大司教が外務省軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課の菅谷正道首席事務官に手渡した。

2.「核なき世界基金」の設立(2020年7月7日)

(1) 経緯:長崎と広島で平和メッセージを発信した教皇フランシスコの思いに応えて、教皇と行動を共にするために、カトリック広島教区の白浜満司教が提案し、平和活動の団体の皆様のご協力を得て実現。

被爆 75 周年から 5 年間のチャレンジ

ワンコインで連帯 One Coin Net

(2) 運営委員

- NPO 法人 ANT-Hiroshima 代表 渡部朋子
- 核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員 川崎 哲
- 核兵器廃絶地球市民集会ナガサキ 実行委員長 朝長万左男
- 「核なき世界基金」を支援する会 広島本部 白浜 満 司教
- 「核なき世界基金」を支援する会長崎支部 髙見 三明 大司教

(3) 3つの目的を段階的に支援

1)「核兵器禁止条約」の批准・発効を後押しする活動の支援

2)世界の核兵器由来の放射能被害者の支援と放射能汚染からの環境回復の支援

3) 核兵器廃棄を目指す活動の支援

(4) 事務局

「核なき世界基金」を支援する会(広島本部)
〒730-0016 広島市中区幟町 4－42
TEL:082－221-6017
FAX:082－221-6019

3. アメリカとのオンライン交流

広島と長崎の被爆75周年記念及び教皇のメッセージへの応答としてオンラインイベント:

(1) 2020年7月18日(土)午前8時(日本時間)
ZOOMで収録。

アメリカカトリック、ノートルダム、ジョージタウン、ノースウェスタンなどの大学が共催

① 髙見大司教:「核兵器不要論」

② アメリカ合衆国カトリック司教協議会

国際正義と平和委員会　委員長マロイ(David Malloy)司教:「核兵器廃絶の必要性について」

(2) 2020年10月5日(日本時間6日早朝)
ノートルダム大学主催 オンライン講演

① 髙見大司教:「核兵器は絶対悪か？」

② クリスチャンセン神父(Rev. Drew Christiansen) :A Monstrous Evil

③ アメリカカトリック大学教授ラブ氏(Dr. Maryann Cusimano Love) :Preparing the Future: Morality, Nuclear Deterrence, and Building a Just Peace

④ ノースウェスタン大学教授宮崎広和氏：
　髙見大司教の講演についてコメント

(3) 10月6日　カトリック大学学生との質疑応答
髙見大司教：導入の話
6人の学生との質疑応答：

(4) 2020年10月9日（金）（日本時間午前8時）
　米国ロヨラ大学主催 オンライン講演
① 髙見大司教：「真の平和とは何か？」
② ダニエル・エルスバーグ氏（Mr. Daniel Ellsberg）：「世界滅亡マシン 核戦争計画者の告白」

5. 長崎からの核廃絶の願い

（1） 教皇は、爆心地公園で最初に慰霊碑に献花をされた。その後、かなり長い時間祈られたが、その姿は多くの人に感銘を与えた。

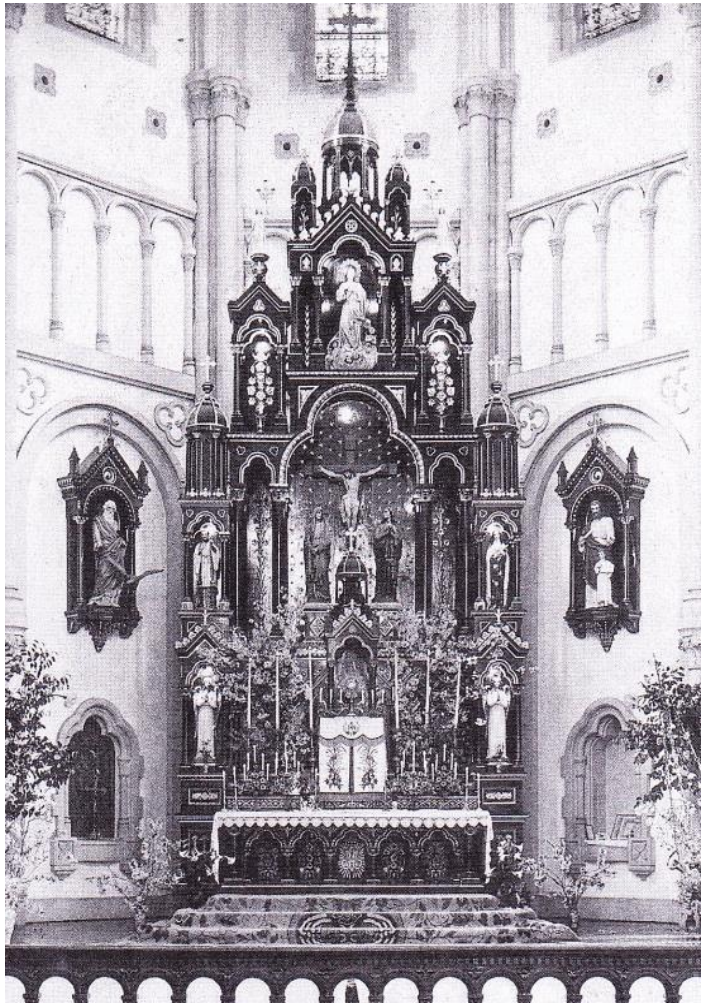
被爆地だけでなく世界のいたるところで核兵器廃絶を訴えている人々の声を代弁してメッセージを述べられた。

特に、広島平和記念公園で、核兵器のない、武器を必要としない平和な世界を真剣に望む人々と心を一つにしているということを繰り返し述べられた。

(2) 長崎爆心地公園で「核兵器についてのメッセージ」を述べた教皇フランシスコの左後ろには「被爆十字架」が立てられていた。

これは、被爆して倒壊した旧浦上天主堂の祭壇の上にあった十字架で、発見したアメリカ兵が米国に送り、その後ウィルミントン大学平和資料センターに展示されていたが、昨年8月7日に浦上教会に返還されたものである。

「被爆マリア」とともに、原爆の悲惨さ、人間の暴力の愚かさ、平和の尊さを訴える原爆遺品の一つである。



平
和

(3) 長崎でもさまざまな核兵器廃絶と平和実現のための活動が展開されている。

(ア)毎月9日11時2分に「防災行政無線」で「千羽鶴」を流す。

長崎市は、2001(平成13)年から毎月9日11時2分に「防災行政無線」で「千羽鶴」を流している。それは「原爆犠牲者のご冥福を祈るとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を祈る」ためである。

(イ)「反核9の日座り込み」

被爆者や高校生たちが、1979年3月から平和公園で核兵器廃絶を訴えて座り込みを続けている。

(ウ)高校生平和大使

1998年5月、核拡散防止条約(NPT)に加盟していないインドとパキスタンが相次いで核実験を強行し、被爆地の市民は核拡散に危機感を募らせた。

「ながさき平和大集会」(現在は「高校生平和大使派遣委員会」)に参加する約50の平和団体は、核の惨禍を知る被爆地ヒロシマ・ナガサキの声を世界に伝えるために、未来を担う若者を「高校生平和大使」として国連に派遣することにした。

1998年から毎年、高校生平和大使は国連を訪問し、核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴えてきた。1999年の第2代まではアメリカ・ニューヨークの国連本部へ、2000年第3代からは軍縮会議が開かれるスイス・ジュネーブの国連欧州本部を訪問している。
高校生平和大使は国連では「ヒロシマ・ナガサキ・ピース・メッセンジャー」として認知され、その真剣な言動は国連で高い評価を得て大きな成果をあげている。

2007年にはブラジル・韓国からと、ペルー籍の高校生平和大使が参加。
2012年にはブラジルの高校生平和大使が参加。10月には、高校生平和大使の活動について、外務大臣感謝状が授与された。
2013年第16代は、外務省ユース非核特使第1号の委嘱を受けた。
2014年には第17代高校生平和大使の代表が、民間人として初めて軍縮会議本会議場でスピーチを行った。

（エ）高校生一万人署名活動実行委員会：

　2001年1月、高校生平和大使募集をきっかけに集まった高校生たちが、「核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動」を自分たちの力でと考えて立ち上げた署名活動。
　発足当初は、高校生の署名を集めようと考えていた。その頃、長崎の高校生は1万人くらいいると見計らって「高校生1万人署名活動」と称した。

毎年秋の実行委員会立ち上げから翌年8月の集約集会までの約1年間、各自の学校や街頭で署名活動を行っている。「高校生1万人署名」には、高校生だけでなく誰でも署名できる。

8月に集約された署名は、高校生平和大使によって国連欧州本部へ届けられる。これまでに提出した署名は100万筆を超え、全て国連に永久保存されることになっている。

署名活動だけにとどまらず、平和な世界の実現のための活動を展開している。国内各地に拠点を置くだけでなく、韓国やフィリピン、ブラジルなど海外へも活動が広がっている。修学旅行で長崎を訪れる中高校生や留学生との交流や、地震などの災害発生時の救援募金活動も行っている。

（オ）高校生一万本えんぴつ運動

一万人署名活動を開始し、初めて署名簿を国連に届けた直後の2001年9月11日、アメリカで同時多発テロが起こり、その後アフガニスタン戦争が始まりまった。核兵器廃絶と平和な世界の実現をめざす高校生1万人署名活動実行委員会は、「戦争はいけない」という共通認識で、長崎でできることを考えた。

2002年4月、戦争が続くアフガンで学用品が不足していることを知り、アフガンの子どもたちに鉛筆などの学用品を贈ることにした。先がとがった鉛筆の形はミサイルに似ていることから、武力による報復ではなく教育を施し、ミサイルよりも鉛筆を贈ろうと考えた。

署名活動にちなんで、集める鉛筆の目標を1万本とし、「ミサイルよりもえんぴつを！」をスローガンに「高校生1万本えんぴつ運動」が始まった。

2002年、目標を超える1万３千本の鉛筆をはじめ、全国からたくさんの学用品が寄せられた。

アフガンへの支援は市民団体を通じて鉛筆３千本が届けられたが、現地の受け入れ態勢が難しく、残りの鉛筆や学用品はフィリピンのスラム街にある自立支援施設ブカスパラドへ贈ることになった。

それ以降、毎年実行委員代表がフィリピンに鉛筆を届け交流している。

また、核兵器の恐ろしさについて知ってもらうためにフィリピンの高校生を長崎へ招待し、いっしょに街頭署名を行うなどの活動も続けている。

2013年にフィリピン北部を襲った台風30号から1周年となる2014年11月、東日本大震災被災地の岩手と長崎から高校生平和大使を派遣、台風被災地の追悼行事に参加した。

また、交流を続ける中から、経済的な理由で教育を受ける機会に恵まれない子どもたちに奨学金を贈る「高校生アジアこども基金」が生まれた。

　これまでに集められた鉛筆や学用品は、アフガニスタンやフィリピンだけでなく、ペルー・ベトナムなどにも贈られた。

　また、東日本大震災被災地の子どもたちへも贈られている。

(カ)「核廃絶―地球市民集会ナガサキ」

同実行委員会は、2000年以降、3～4年毎、11月に3日の日程で開催し、被爆地長崎から核兵器廃絶の願いを世界に発信している。第1回は4日間の日程で、延べ5,625人が参加した。2019年に第6回を迎えた。

(キ)「『ヒバクシャ国際署名』をすすめる長崎県民の会」

米国オバマ大統領の広島訪問をきっかけに、被爆者5団体代表者が呼びかけ人となって、2016年9月に結成し、署名活動を続けてきた。

広島と長崎の被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを求めている。

2020年8月9日に目標としていた50万筆を達成した。

(ク)株式会社V.ファーレン長崎

V.ファーレン長崎は、長崎にあるサッカークラブとして、「愛と平和と一生懸命」をキャッチコピーに、「平和」への思いを発信するにあたり、チーム・フロント・ファン・サポーターが一体となって、世界に向けて平和へのメッセージを発信している。

具体的には平和祈念マッチ、平和学習、各種団体との連携などを行う。

「V・ファーレン」:

「V」はポルトガル語で勝利を意味するVITORIA（ヴィトーリア）の頭文字と同時にオランダ語で平和を意味するVREDE（フレーデ）の頭文字。
「ファーレン」(VAREN)はオランダ語で「航海」を意味している。
「勝利と平和の道を進む/目ざして進む」という意味になるだろうか。

教皇フランシスコの回勅（2020年10月3日）『すべての人は皆兄弟姉妹』

人類の兄弟愛と社会的友愛（Fraternity and Social fellowship）について

わたしたちは、一人一人の尊厳を認めることによって兄弟愛への憧れを世界中の人々に再び抱かせるのに貢献できる、これがわたしの願望です。

すべての男性と女性が互いを兄弟姉妹と見なすこと。「わたしたちにはわたしたちを支え助ける共同体、わたしたちが、前を向いていくよう互いに助け合うことのできる共同体が必要です。」

夢は一緒に見て、一緒につくるもの。

一つの人類家族として、同じ人間性を共有する旅人の仲間として、共通の家である同じ地球の子どもとして、各自がそれぞれの豊かさや信条を持ち寄り、「皆兄弟姉妹だ」という、それぞれの声をもって、夢を見ましょう。